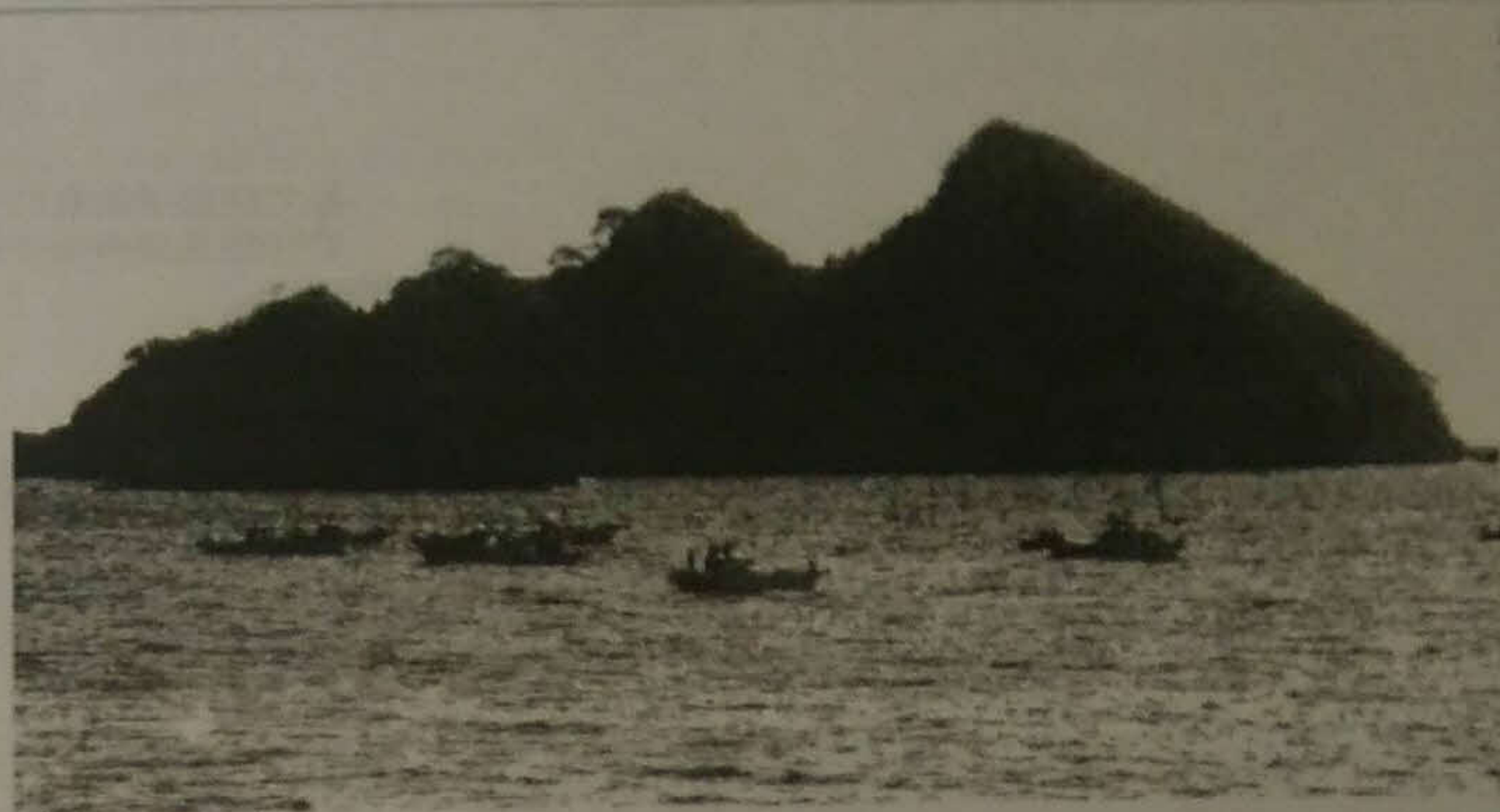


ボーリング調査準備中止

上関原発 中電、反対派抗議で



中国電力は4日、上関町ボーリング調査の準備作業を中止した。原発建設計画に反対する同町祝島の島民らが漁船約10隻を調査海域に停泊させるなどして抗議活動を行ったため、安全が確保できる状況ではないと判断した。

掘削地点の測量や地点を示すブイの設置などを予定していた。しかし、午後2時ごろの時点で漁船約10隻が集まり、中電が海域から出るように交渉したが、反対派は応じなかった。同3時ごろに作業船が到着したが、中止を決めた。

同準備事務所の内富恭則広報部長は「作業が進められず残念。5日以降も安全確保を最優先に進めたい」と話した。

中電は原発の新規制基準に対応するため、昨年11月に活断層の有無を調べる海上ボーリング調査の準備作業を始める予定だった。しかし、反対派の抗議活動や海象条件の悪化で中断し、同12月に占用許可の廃止届を県に提出。10月7日に再び占用許可を申請し、4日から準備作業に入る予定だった。

(寺田昌行)

(15) 県内社会 山

上関ボーリング 中電が準備作業 反対行動受け中断

中国電力(広島市)は4日、上関町の上関原発建設予定地での海上ボーリング調査のための準備作業を始めた。建設に反対する対岸の祝島の島民らが漁船約10隻を出して周辺で監視したため、中国電は安全を確保できないとして作業を中断した。

海上ボーリング調査は予定地周辺の活断層の有無を調べるためのもので、予定地西側の沖200メートル地点を

海底から60メートル下げる。この日は調査地点を確定するための測量やブイの設置をする予定で、中国電の職員が交渉にあたったが、島民らが応じなかった。調査に必要な海域の占用許可は来年1月28日までで、中国電は島民らとの交渉を続けるといふ。

ボーリング調査をめぐっては、昨年11月に中国電が準備作業を始めたが、反対派住民らによる抗議行動や悪天候により、12月に中断。今年10月に改めて県に占用の申請をし、許可を受けていた。

(藤牧幸一)

上関原発建設

反対派の抗議再び

中国電 ボーリング準備進まず

中国電力(広島市)が上関町で進める上関原発建設計画で、建設予定地の埋め立て海域で4日、海上ボーリング調査をするための準備作業が始まった。しかし、建設反対派が漁船を停泊させて抗議したため、予定していた測量と掘削地点を示すブイの設置ができなかった。抗議などで最終的に作業が完了しなかった1年前と同じ展開となった。

【監山隆俊、大山典男】

4日午後2時ごろ、埋め立て海域に中国電の船3隻が到着した際には、既に予定地対岸の祝島に暮らす反対派の漁業者らの船約10隻が集まっていた。中国電側は漁船に移動を呼びかけたが、応じなかった。同午後3時半ごろに委託業者の作業船1隻が到着しても状況

などが「みんなの海だ」と書いた横断幕を掲げるなどして抗議の意思を示した。中国電上関原発準備事務所の内富恭則広報部長は「原子力の安全・安心に関わる調査と説明してきたい」と話した。



上関原発建設予定地前の海上で、反対派の漁船に船で近付いて説得する中国電力の社員(左)

が目的で、西方約200メートルの海域に作業台船を据え付け、水深約11メートルの海底を60メートル掘削する。調査期間は1カ月半、2カ月を予定している。